

今週のビルマのニュース
2009年10月2日【0937号】

アウンサンスーチー氏の控訴、棄却される

・5月に米国人男性を家に入れたことが国家防衛法違反とされ、8月に有罪判決(禁固3年)を受けた民主化指導者アウンサンスーチー氏の控訴審で、ヤンゴン地裁は2日、一審の有罪判決を支持し、氏の控訴を棄却する判決を出した(2日AFPほか)。

米国が新しいビルマ政策を正式に発表

・米 국무省は28日、制裁と同時に対話も活用する新しいビルマ政策を正式に発表した。 국무省によれば、民主主義や人権などについて軍政との直接対話を始める。制裁については「(ビルマ側で)改革に向けた具体的な進展があるまでは、既存の制裁を維持する」と明記している(28日 국무省)。

・民主化指導者アウンサンスーチー氏が軍政トップ・タンシュエ将軍宛ての書簡を準備したと、氏の弁護士が述べた。書簡で氏は「制裁を解除するために、軍政と協力する用意がある」とし、まず既存の制裁の効果について制裁を課している国から説明を受けた上で、国民民主連盟(NLD)の幹部らと協議することを望んでいる(25日VOAほか)。書簡は、制裁に関する氏の立場の変更を示すものではない。

ウェッブ米上院議員がヒアリングを開催

・米議会上院外交委員会のアジア太平洋小委員会(委員長=ウェッブ上院議員)で30日、ビルマ政策についてのヒアリングが行われた。証人としてキャンベル國務次官補のほかに、ジョージタウン大学のスタインバーグ教授ら3人のビルマ専門家が呼ばれ、米国の対ビルマ制裁の効果や、軍政が来年に実施を予定している総選挙の問題点などについて証言した。制裁を支持する専門家や民主化運動団体からは証人が呼ばれなかったため、ビルマ人僧侶や活動家からは批判の声も上がった(1日CNSほか)。

カチン武装勢力と軍政との緊張状態が続く

・軍政と停戦協定を結んでいる武装勢力の一つ、カチン独立機構(KIO)は、軍部の改編をめぐる軍政との8回目の交渉会議をした。軍政はKIOの軍部を国境警備隊として国軍の指揮下に入れるよう求めている。KIOは、国境警備隊への改編には応じているものの、国軍の指揮下に入るのを拒んでおり、交渉は行き詰っている。武力紛争に発展する恐れもあり、緊張状態が続いている(1日日イラワディほか)。

ビルマへの政府開発援助(ODA) 約束状況など

9月29日 草の根無償資金協力 ヤンゴン管区のリハビリティ病院の施設拡充のため 9万3,750ドル

イベント情報

・在日ビルマ人民化活動家のみなさん アウンサンスーチーさん高裁判決日にあたって～スーチーさんは無罪! スーチーさんと全ての政治囚の釈放を求める抗議行動(在日ビルマ大使館前、2日14時～)

・ビルマ・ダディンジュ祭(灯祭り) 主催:ミャンマー文化福祉協会(MCWA)(板橋都税事務所(東武東上線「大山駅」、4日13時半～))

・在日ビルマ人共同行動実行委員会ほか 国連事務総長に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動(国連大学前、6日～9日15～16時)

・難民映画祭「Burma VJ」(イタリア文化会館 10月3日18時半、ドイツ文化センター 6日17時)

・東京大学大学院総合文化研究課 第88回人間の安全保障セミナー「カレン族難民の現状と今後」講師 税田芳三(UNHCRメソト事務所所長)(東京大学駒場キャンパス18号館4階、5日15時～)

・在日ビルマ難民たすけあいの会主催 聞くことから始めるビルマ難民ソーシャルワーク第一回「証言・軍事政権下での生活と民主化デモ」(南大塚地域文化創造館、18日18時)★要申込

・日本ビルマ救援センター月例ビルマ問題学習会「マウンマウンティンの世界」(大阪ボランティアセンター、16日19時～)

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース(平日毎日更新)
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165